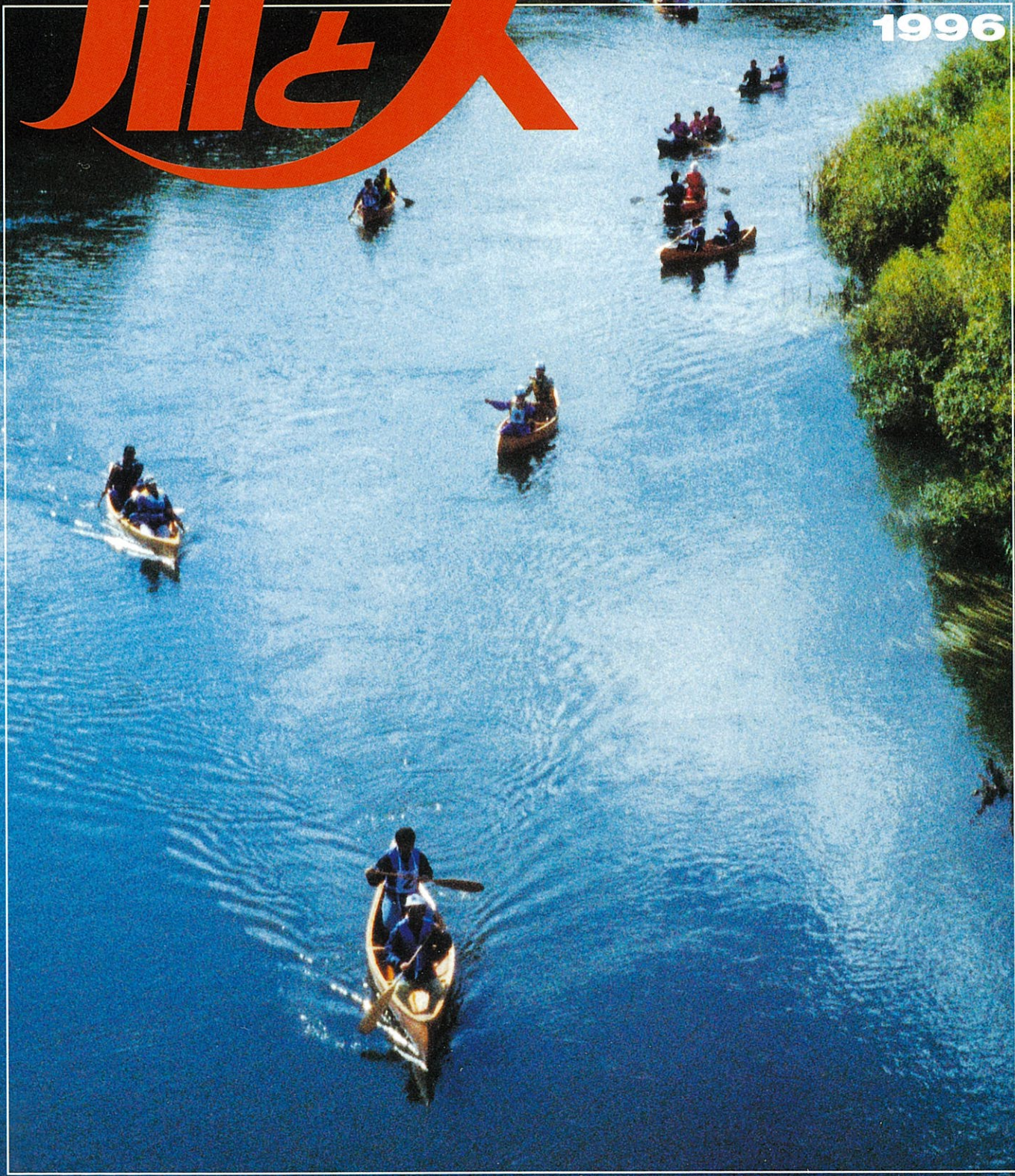
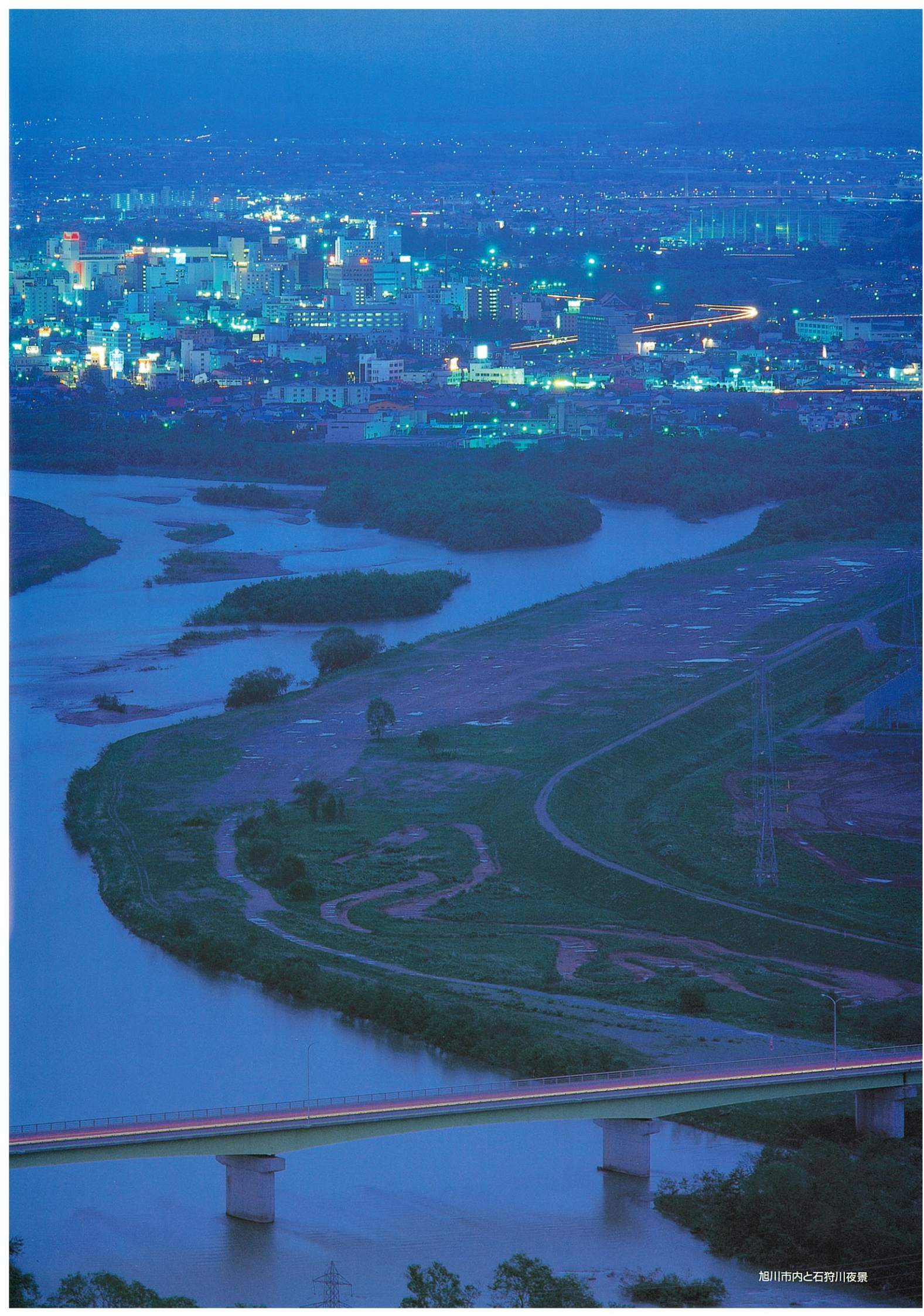


Vol.8
1996



川と人





旭川市内と石狩川夜景



C N T E N T S

石狩川名所めぐり

- 南富良野町 かなやま湖・ログハウス村 ③
三 笠 市 三笠市立博物館・三笠鉄道村・桂沢湖 ④

HISTORY

- 上川盆地の河川 豊田 實大 ⑤～⑧

世界治水紀行

- バングラデシュ編 後編 伊藤 丹 ⑨・⑩

流域市町村の紹介

- 北 竜 町 カづよい水を糧にクリーン農業を展開 ⑪
新十津川町 水と緑の環境づくり ⑫

インタビュー◆川に生きる

- 水位・雨量観測員 森川茂さん ⑬・⑭

河川事業の紹介

- 北海道開発局
平成8年度重点施策 流域遊水地事業(新規) ⑮・⑯
北海道開発局石狩川開発建設部 雨竜川捷水路事業 ⑮・⑯
◆北海道・ゆめプラン『あなたからの提言』募集 ⑯

川と人通信

- 石狩川の仲間たち/暗闇を飛ぶエゾモモンガの不思議 ⑰
石狩川の自然探求/チョウザメが来遊する石狩川 ⑱

トピックス

- 冬の風物詩、ワカサギ釣り ⑲
湖畔を彩る水の芸術、支笏湖水濤まつり ⑳
下水道処理水を再利用した流雪溝・融雪溝(奈井江町) ⑲・㉑

石狩川振興財団の活動報告

- 第2回ザ・セカンド・シルパニア・プログラム ㉑
第3回石狩川サミット開催 ㉑・㉒

石狩川名所めぐり

北海道のほぼ中央、石狩川支流空知川の上流に位置する南富良野町は古くから空知川沿いの肥沃な土地で農業が営まれ、周囲を囲む山林資源を活用した林業と併せ、現在も町の主要産業となっています。

昭和42年に治水、発電等の目的で、空知川をせき止めた「金山ダム」が完成し、人造湖「かなやま湖」が誕生いたしました。かなやま湖誕生と共に湖畔沿いにキャンプ場を整備し、昭和47年からは「かなやま湖湖水まつり」が開催され、現在では「かなやま湖太陽と森と湖の祭典」として約3万人が訪れる一大イベントに成長しています。

平成元年にはまなす国体カヌー競技が、かなやま湖で開催されてからはカヌー、ウィンドサーフィンなどのマニアが多く訪れるようになり、キャンパーの増加とともにアウトドアスポーツのメッカとして注目を浴びて、現在では年間約40万人の観光客が訪れるようになりました。

町では、かなやま湖を中心とした地域の活性化を図るために湖畔の環境整備と周辺に宿泊等レク施設を整備し、野外生活基地の拠点づくりを進めています。

かなやま湖
ログハウス村

南富良野町

MINAMIFURANO

山々と湖が息を吹き返す春

緑とラベンダーと湖の取り合せが絶妙な夏。

紅葉の秋も、白い冬も魅力いっぱい水源郷。



かなやま湖



遊園地(ラベンダー畑)

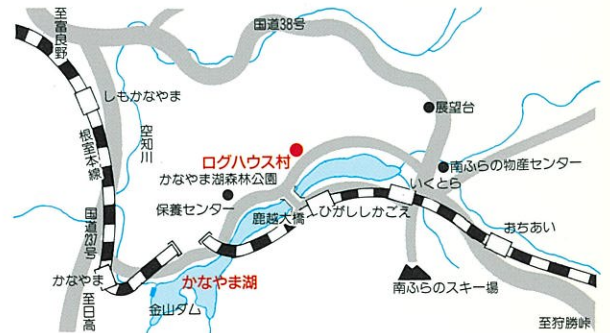


カヌー風景

ログハウス村

かなやま湖畔のカラマツ林内に建設されたログハウス村。宿泊ルーム9室とレストランからなる本館とコテージ9棟で構成され、カラマツ大径木を使用した本格的な「ログホテル」。

自然の柔らかな質感を全館に活かし、いつも森の薫りと自然の優しさが満喫できます。



三笠市は札幌インターから高速で30分、アンモナイトやエゾミカサリュウ、そしてアジア地域で初めて発見された草食恐竜ノドサウルスなど、多くの古生物関係の化石が発掘されている「太古のロマンを秘めたまち」です。

その多数の化石は市立博物館に展示され、アンモナイト化石の展示では日本一ともいわれるほどで、別名「化石の博物館」とも呼ばれています。

また、北海道の鉄道発祥の地(明治15年、道内で最初の鉄道三笠幌内〜小樽手宮間)である三笠には鉄道村があり、昔、活躍していた本物の車両も数多く展示しています。中でもSL304号は実際に走り、乗ることができるため、大変人気があります。

そのほか道立自然公園に指定されている桂沢湖は自然景観が美しく、四季を通じて楽しめる場所として多くの人が訪れています。

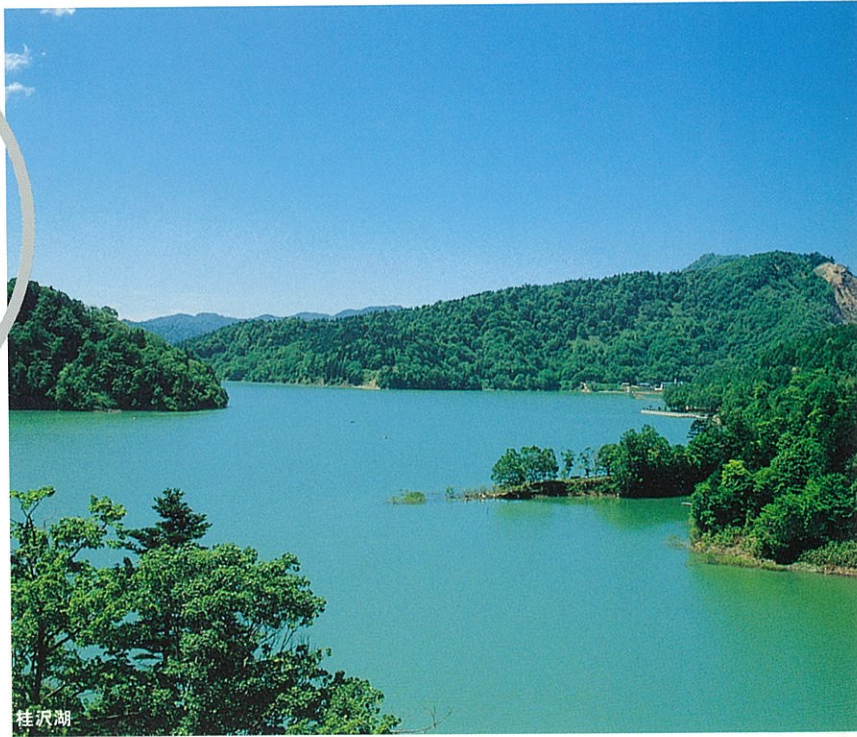
そして、幾春別川総合開発事業における三笠ぼんべつダムの新設と新桂沢ダムとして、現在の桂沢ダムの嵩上げを行う工事が本格的に始まり、それにもない桂沢湖周辺整備も進みます。今後一層魅力ある観光地づくりをめざしております。



三笠市立博物館
三笠鉄道村
桂沢湖

三笠市

M
I
K
A
S
A



時の旅人になって
太古の白亜紀へ、開拓の時代へ…。
森と湖に囲まれながら、非日常を体験する。



三笠市立博物館 (1F展示室) 古生物地質コーナー



アンモナイト

かつて世界中の海に生息し、約7千年前(白亜紀末期)に絶滅した軟体動物頭足類の仲間。三笠市立博物館は国内有数のアンモナイト収蔵館として知られています。



エゾミカサリュウ(国の天然記念物)

昭和51年6月、桂沢湖に連なる菊面沢で発見された大型肉食爬虫類の頭部化石で、発見地にちなんで名付けられました。現在も研究を進め、諸説乱れ飛ぶなど、世界的にも有名な化石です。

平凡社発行世界大百科辞典の「上川盆地」の項には、……北海道の屋根大雪山のふもとにあり、二条の山地にかこまれた低地帯のうち旭川市を中心とする盆地。面積約四五〇km²……とある。しかし、この上川盆地の範囲は、海拔二〇〇m以下の低地帯（平野部分）をさしており、石狩川上流部のすべての流域をあらわすものではない。

私は、「上川盆地」という語を、神居古潭以東の石狩川本・支流の流域全体をさす語として使用したいと思う。理由は、「上川盆地の自然」という場合、北海道最高峰旭岳を中心とする多くの山群、溶結凝灰岩からなる各地群、金道屈指の米産地としての低地帯等のすべての自然を含むものであるからである。そこで、上川盆地の範囲を、上川中部の一市八町としたい。面積は、一市八町の面積合計から、旭川市のうち、自然的にも北空知地区に属すと思われる内大部川流域の約四十km²を除外した、約四、九六〇km²とする。

明治六年（一八七三）、地質調査のため上川盆地に入った、開拓使雇のアメリカ人、ベンジャミン・スミス・ライマンは、……この地は、遠山圍繞し、石狩岳（大雪山であろう）は正東にあつて、盛夏でも白雪をいただいて眼前にぞびえ、この地の肥沃であることはまちがいない。まさに、「カジュメア」（インドにあり、古来、天富（天府）の園という）というべきである。だから、ぜひ天皇の行幸をおおぎたい。……と記している。（鴻上寛一著・上川開発史）。

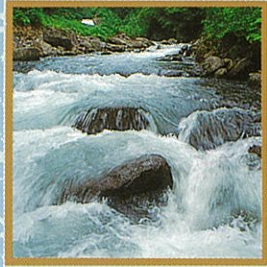
国土地理院発行、二万五千分の一地形図には、水流と河川名とがいずれも記載されているものが、上川盆地には、三一―河川ある。それらを、すべて「キルビメーター」で長さを計測してみた。その結果を以下に記すが、延長二十km以上のものが一四河川（地図に河川名）、一〇―二〇kmのものが三九河川（地図に番号）あった。

上川盆地の河川

郷土研究家
豊田 實大



忠別川(上流)



忠別川(溪流)



一 五三河川の長さや計測区間

A 石狩川―延長一一八・五km。神居古潭入口の「神居岩」下の急流部分（アイヌ語で、レーコロ・プイラーリ有名な急流）から上流部を計測した。この急流部分は、上川盆地の西限である幌内山地の分水嶺が石狩川に落ち込む所である。ここは、北海道開発局旭川開発建設部発行「石狩川写真集」の石狩川河口から、一三八・五km地点とほぼ一致する。この地点を上川盆地の入口とした。源流部は、石狩岳西斜面のペテトク沢の海拔一、三七〇m地点までを計測した。石狩川の総延長は、二五七kmであるから、その四六％が上川盆地にあることになる。

B 美瑛川―延長七一・〇km。忠別川への合流点から、トムラウシ山（二、一四一m）の西方「三川台」（二、七七〇m）南斜面の海拔一、五一〇m地点まで。

C 忠別川―延長五七・五km。石狩川への合流点から、忠別岳（一、九六一・六m）の北麓の海拔一、六八〇m地点まで。

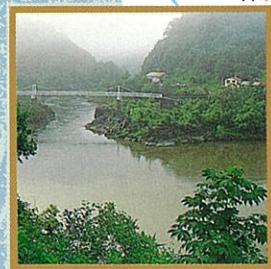
D 辺別川―延長四五・三km。美瑛川への合流点から、前記「三川台」（二、七七〇m）西斜面の海拔一、五二〇m地点まで。

E 牛朱別川―延長三六・二km。石狩川への合流点から、安足山（八五一・〇m）南西斜面の海拔六九〇m地点の大沢川谷頭まで。

F 米飯川―延長二八・八km。牛朱別川への合流点から、米飯山（九一〇m）南方の「旭川峠」（九七〇m）西斜面の海拔七五〇m地点まで。

G 宇莫別川―延長二七・〇km。辺別川合流点から、丸山（一、一三六・九m）北東斜面の海拔八六〇m地点まで。

H 留辺志部川―延長二六・八km。石狩川合流点から、滝上町との境界にある一、二三九m峰南斜面の海拔一、〇四〇m地点まで。



石狩川(神居古潭)

History

- 次に、延長二〇〜二〇kmの三九河川について、地図の番号にしたがって記す。
- 1** ハイシュベツ川―延長一・〇km。ヨンカシュッペ川合流点から、増子山(五〇五・六m)南斜面の海拔三二〇m地点まで。
 - 2** ヨンカシュッペ川―延長二・五km。オサラッペ川への合流点から、旭川市と比布町との境界にある四四二・一m峰西斜面の海拔二四〇m地点まで。
 - 3** ウツペツ川―延長一三・八km。石狩川への合流点から、東鷹栖四線二〇号道路まで。
 - 4** 比布川―石狩川合流点から、班溪山(八一九・八m)南西斜面の海拔四五〇m地点まで。
 - 5** ウツペツ川―延長一〇・〇km。比布川への合流点から、東園十六号の共栄幹線溝路まで。
 - 6** オサラッペ川―延長二五・三km。石狩川合流点から、千歳山(四四六m)南東斜面の海拔三六〇m地点まで。
 - 7** 倉沼川―延長二五・〇km。米飯川への合流点から、東川町と旭川市米飯との境界にある九四一m峰西斜面の海拔七三〇m地点まで。
 - 8** 置杵牛川―延長二四・八km。美瑛川への合流点から、丸山(二、三三六・九m)西方の一、〇二二m峰西斜面の海拔七九〇m地点まで。
 - 9** 安足間川―二四・三km。石狩川への合流点から、「沼の平」の海拔一、四四〇m地点まで。
 - 10** 江丹別川―延長三三・八km。石狩川への合流点から、丸山(五五六・四m)南斜面の海拔三二〇m地点まで。
 - 11** 愛別川―石狩川への合流点から、大正山(六四七・八m)南斜面の海拔四八〇m地点まで。



6 マタルクシユ愛別川―延長一〇・八km。愛別川への合流点から、丸山(八三・七m)北東斜面の海拔六四〇m地点まで。

7 石狩狩布川―延長二五・八km。愛別川への合流点から、パンケトウ(二、〇一〇m)南斜面の海拔九八〇m地点まで。

8 エチャナンケツ川―延長一五・八km。石狩川への合流点から、摺鉢山(二、〇二六・四m)北西斜面の海拔七一〇m地点まで。

9 岩内川―延長一一・五km。留辺志部川への合流点から、天塩岳(一、五五七・六m)南斜面の海拔一、〇〇〇m地点まで。

10 トイマルクシユベツ川―延長一五・三km。留辺志部川への合流点から、有明山(一、六三四・九m)西斜面の海拔一、四三〇m地点まで。

11 茅刈別川―延長一六・三km。留辺志部川への合流点から、比麻良山(一、七九六・〇m)西斜面の海拔一、五二〇m地点まで。

12 ニセイチャロマップ川―延長一八・二km。石狩川への合流点から、ライオン岩(二、六九一m)南西斜面の海拔一、一九〇m地点まで。

13 ルベシナイ川―延長一一・〇km。由仁石狩川(大雪湖)への合流点から、石北峠南方の一、二四六m峰北西斜面の海拔一、〇〇〇m地点まで。

14 由仁石狩川―延長一一・三km。石狩川(大雪湖)への合流点から、ユニ石狩岳(二、七五六m)北西斜面の海拔一、三三〇m地点まで。

15 ヤンベタツ川―延長一〇・〇km。石狩川への合流点から、白雲岳(二、二二九・五m)東斜面の海拔一、九四〇m地点まで。

16 赤石川―延長一〇・四km。石狩川への合流点から、大雪山カルデラである御鉢平の海拔一、九一〇m地点まで。

17 天幕沢―延長一〇・五km。石狩川への合流点から、比布岳(二、一九七m)北斜面の海拔一、八〇〇m地点まで。

18 白川―延長一八・八km。石狩川への合流点

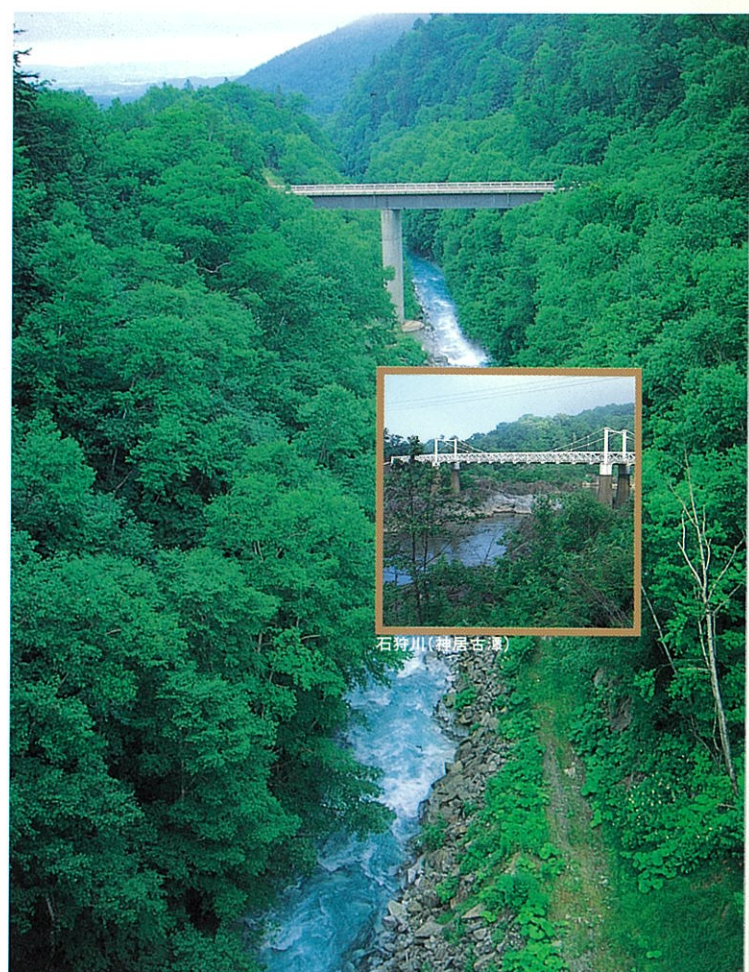
から、比布岳(二、一九七m)北西斜面の海拔一、八四〇m地点まで。

19 パンケフェエマナイ川―延長一〇・三km。石狩川への合流点から、「大雪アングス牧場」南部の三角点七二六・三m北斜面の海拔六六〇m地点まで。

20 ベイトル川―延長一六・〇km。安足間川への合流点から、安足間山(九七八・八m)東南方、九八八m峰東南斜面の海拔八七〇m地点まで。

21 ポンアントロマ川―延長一一・八km。安足間川への合流点から、当麻岳(二、〇七六m)西斜面の、イズミノ沢谷頭部の、海拔一、五九〇m地点まで。

22 当麻川―延長一九・〇km。牛朱別川への合



石狩川(穂辰古蹟)

美瑛川

流点から、石垣山(五二五・一m)南東斜面の海拔三二〇m地点まで。

23 石渡川―延長一六・〇km。牛朱別川への合流点から、米飯山(九一九・九m)西斜面の海拔五九〇m地点まで。

24 ポロ倉沼川―延長一〇・〇km。倉沼川への合流点から、江卸山(六七二・八m)東方、七〇一m峰北斜面の海拔五三〇m地点まで。

25 ポン倉沼川―延長一〇・八km。倉沼川への合流点から、江卸山(六七二・八m)北斜面の海拔四五〇m地点まで。

26 基北川―延長一〇・〇km。牛朱別川への合流点から、東旭川町上八号道路線(三九・五m)まで。

27 ノカナン沢―延長一〇・五km。忠別川への

合流点から、本安足山(二、二四一・一m)西

南西一、二四七・七m峰西斜面の海拔九五〇m地点まで。

28 ピウケナイ沢―延長一九・八km。忠別川への合流点から、北鎮岳(二、二四四m)西斜面の海拔一、九六〇m地点まで。

29 エコマンベツ川―延長一一・八km。ピウケナイ沢への合流点から、天女ヶ原西南麓、勇駒別川谷頭の一、二二〇m地点まで。

30 クワウンナイ川―延長一三・五km。忠別川への合流点から、トムラウシ山(二、一四一・〇m)西斜面の海拔一、六四〇m地点まで。

31 ポン川―延長一五・八km。忠別川への合流点から、東神楽遊水池二五〇m地点まで。

32 八千代川―延長一二・五km。ポン川への合流点から、柏木山(四二二m)北斜面の海拔三一〇m地点まで。

33 志比内川―延長一〇・〇km。忠別川への合流点から、岩山(六五〇m)南斜面の海拔四八〇m地点まで。

34 左股沢川―延長一〇・〇km。辺別川への合流点から、上忠別山(二、二二・九m)南方、一、一八八m峰南斜面の海拔八八〇m地点まで。

35 美馬牛川―延長一五・〇km。美瑛川への合流点から、井牧山(四四四・三m)北斜面の海拔三四〇m地点まで。

36 瑠辺薬川―延長一五・三km。美瑛川への合流点から、竹山(七六七・〇m)南斜面の、南沢川・南沢谷頭五四〇m地点まで。

37 オイチヤヌンペ川―延長一四・五km。美瑛川への合流点から、瑠辺薬山(八五八・七m)北斜面の海拔六五〇m地点まで。

38 雨粉川―延長二二・八km。美瑛川への合流点から、神居山(八〇九・八m)東斜面の海拔六一〇m地点まで。

39 伊野川―延長一六・〇km。石狩川への合流点から、幌内山地の三角点六五四・五m峰東斜面の海拔三〇〇m地点まで。

合流点から、本安足山(二、二四一・一m)西

南西一、二四七・七m峰西斜面の海拔九五〇m地点まで。

28 ピウケナイ沢―延長一九・八km。忠別川への合流点から、北鎮岳(二、二四四m)西斜面の海拔一、九六〇m地点まで。

29 エコマンベツ川―延長一一・八km。ピウケナイ沢への合流点から、天女ヶ原西南麓、勇駒別川谷頭の一、二二〇m地点まで。

30 クワウンナイ川―延長一三・五km。忠別川への合流点から、トムラウシ山(二、一四一・〇m)西斜面の海拔一、六四〇m地点まで。

31 ポン川―延長一五・八km。忠別川への合流点から、東神楽遊水池二五〇m地点まで。

32 八千代川―延長一二・五km。ポン川への合流点から、柏木山(四二二m)北斜面の海拔三一〇m地点まで。

33 志比内川―延長一〇・〇km。忠別川への合流点から、岩山(六五〇m)南斜面の海拔四八〇m地点まで。

34 左股沢川―延長一〇・〇km。辺別川への合流点から、上忠別山(二、二二・九m)南方、一、一八八m峰南斜面の海拔八八〇m地点まで。

35 美馬牛川―延長一五・〇km。美瑛川への合流点から、井牧山(四四四・三m)北斜面の海拔三四〇m地点まで。

36 瑠辺薬川―延長一五・三km。美瑛川への合流点から、竹山(七六七・〇m)南斜面の、南沢川・南沢谷頭五四〇m地点まで。

37 オイチヤヌンペ川―延長一四・五km。美瑛川への合流点から、瑠辺薬山(八五八・七m)北斜面の海拔六五〇m地点まで。



上川盆地の「熊」に関する 河川名について

(ア) 和名(二〇河川) 二万五千分の一地形図には次のものがある。(地図中の○番号と一致する)

- ①熊ノ沢―旭川市伊納地区。JR伊納駅の北方七五〇mにある石狩川右岸の小沢。アイヌ語名は、「松浦川」によると、「ヌブ・パ・オマ・ナイ(野・の上手に・入っていく・川)」である。大正時代まで、現在の伊納付近はこのアイヌ語沢名から、「ノッパ・マナイ」と呼ばれていた(鷹栖村史)。
- ②熊の沢―愛別町徳星地区。マタルクシユ愛別川の右岸にある小沢。主要道「下川・愛別線」(道タ一〇一号线)は、この沢に沿ってのぼり「於鬼頭トンネル」を越えて、朝日町へ通ずる。
- ③クマンノ沢―層雲峡入口の上川町真勳別地区。石狩川上流部左岸にある沢。カタカナ書きである。
- ④熊ノ沢―当麻町開明地区。当麻川中流部右岸にある沢。大正一〇年頃、和人の釣人がアイヌの一家族から、上流に熊をとるぶし矢が仕かけてあるので危険だから行くな」と言われたという話が伝えられている(当麻町史)。アイヌ語沢名は、「エラマンテ・ウシシペツ(狩をする・牛朱別川支流)」。熊狩りをした沢で、和名も熊の沢となったのであろうか(山田秀三・北海道の地名)。この沢だけ、和名とアイヌ語名とが一致しているめずらしい例。
- ⑤熊ノ沢―旭川市東旭川町米飯瑞穂地区。米飯川上流部の右岸にある沢。「冷泉沢」の別名があり、昭和初期には、わかし湯の温泉があった。

った。道立「二十一世紀の森」は、この沢の奥にある。

⑥熊の沢―大雪山国立公園「裾合平」西方の東川町内。忠別川の右岸支流であるピウケナイ沢へ、海拔一、〇〇〇m付近で合流する沢。開拓入植者とは無関係で、登山者との関係で命名されたのであろう。

⑦熊の沢川―東川町天人峡人口。忠別川上流部右岸にある沢。北海道電力・江卸ダムの上流側に沢口がある。にじます釣りの穴場であるといわれている。

⑧熊ノ沢―美瑛町中宇莫別地区。宇莫別川中流部右岸にある沢。この沢から、辺別川流域の俵真布地区へ通じる道路がある。

⑨熊沢川―美瑛町置杆牛中央地区。置杆牛川中流部右岸にある小沢。

⑩熊見川―美瑛町新星第四地区。美馬牛川中流部右岸にある沢で、海拔二五九mの「熊見山」の麓を流れている。この熊見山は、戦前この地は軍用地で、野砲隊の演習中、望遠鏡に熊が徘徊するのが見えたので命名された(NHK北海道本部編・北海道地名誌)……と記されている。この沢の源流部近くに「拓進館」がある。

(イ) アイヌ語名「松浦川」・「明治三三・三十一



石狩川(旭川遠景)

年発行、北海道複製五万分一図」に記載されているものをあげる。

⑪ルオベツ―旭川市中江丹別中園地区。江丹別川右岸の支流。ルオナイとも書かれ、「永田方正」も「知里真志保」も共に、(道・ついでに・沢)としている。しかし、私は、「ル・オベツ(熊の足跡・多い・沢)とするのが、理にかなっているように思う。現河川名は、ロベツ川。現在、この沢が江丹別川に合流した地点の対岸に、旭川市のゴミ処理場がある。

⑫エラマンテシペツ―旭川市江丹別・西里地区。江丹別川の右岸支流である西里川の上流域。「永田方正」は、「丸小屋ある川・熊獵の丸小屋なり」とし、「知里真志保」・「山田秀三」は共に、「狩をする・いつもする・川)としている。この地は、旭川と幌加内とを結ぶ江丹別峠(海拔四八〇m)の真下の盆地である。

⑬ノロマナイ―上川町日東地区。留辺志部川左岸の小沢。「知里真志保」は「ノル・オマ・ナイ(熊の足跡・ついでに・沢)としている。現河川名もノロマナイ沢。

⑭チウツクニウシユペツ―上川町上越地区。留辺志部川左岸の支流。「チウク・ニウシユ・ペツ(熊が通路の立木に、爪跡や噛み跡をつ



旭川3川合流点

けた木・多くある・川)」。現河川名は、南の沢川である。

⑮クオーナイ―当麻町協和地区。牛朱別川左岸の小沢。「ク・オ・ナイ(仕掛弓・多くある・沢)」。知里真志保」。現河川名は不明。

⑯クラロマイ―旭川市東旭川町及び東川町の倉川流域。「ク・ラルマ・イ(仕掛弓・多く仕掛けてある・場所・知里真知保)」。現河川名は倉沼川。

⑰ノカナン―東川町野花南地区。忠別川中流部右岸の支流。「ノ・ク・アン・ナイ(熊の・仕掛弓・がある・川)」。現河川名は、ノカナン沢。

⑱ノルアンナイ―美瑛町水沢地区。美瑛川中流部左岸の支流。「ノル・アン・ナイ(熊の足跡・がある・沢)」。知里真志保」。現河川名は、水沢川であり、上流部に水沢ダムがある。

⑳エラマンテウシユペツ―当麻町開明地区の④「熊ノ沢」の項ですでに述べた。

(ウ)「熊」に関する河川名は、ヒグマのいた所であるが、アイヌ語名の河川名と、和名の河川名とは、④「熊ノ沢」||「エラマンテウシユペツ」だけが一致しているが、その他はすべて、場所がずれている。記入された地図を見ると、一般に、アイヌ語河川名がより西部(札幌に近い方)にあり、和名河川名がより東部(大雪山・十勝岳寄り)にあることがわかる。これは、入植・開拓前線の奥地への前進につれて、ヒグマの生活圏へ進入すること、人とヒグマとの接触が多くなり、「熊」のつく河川名が誕生することになったのであろう。

History

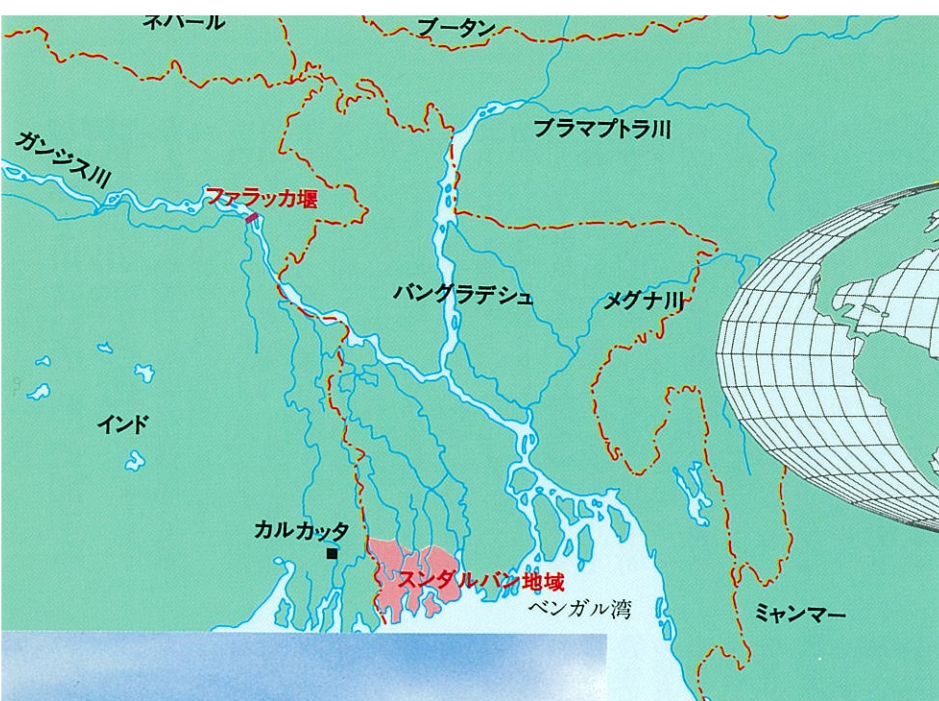
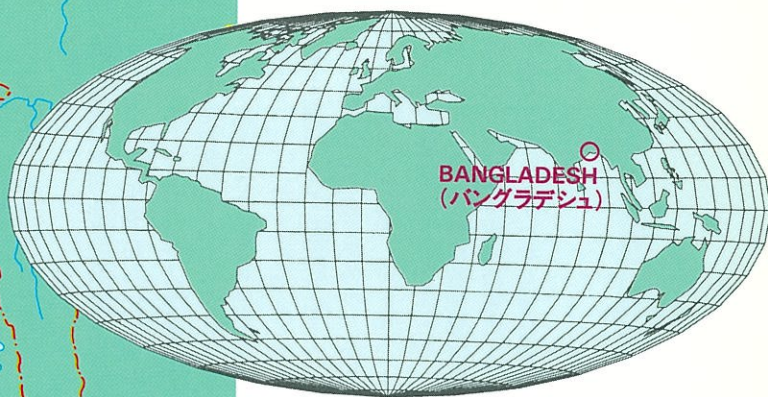
世界治水紀行

(バングラデシュ編)

前号ではバングラデシュをガンジス河水系(Ganges River)の大洪水やベンガル湾から襲来するサイクロン災害の面から紹介した。後編では、乾季における干ばつの面から述べたい。

その干ばつの人為的原因の一つとしてインドが対バングラとの国境付近に建設したガンジス河にかかるファラッカ堰が問題視されており、バングラの農業、河川水・地下水の塩水化(灌漑用水、飲料水に不適)、舟運への影響、スンダルバン地域の生態系(微妙な塩分バランスの中で生育するマングローブ林と動植物群)に相当な影響が現れているとされ、バングラにとっては対インド外交上、最大の懸案の一つとされている。

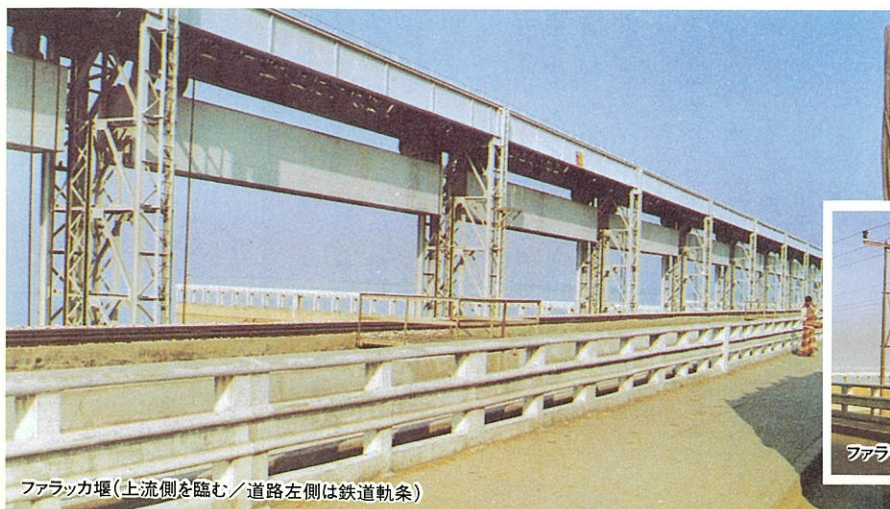
95年1月、かねてから念願であったファラッカ堰を視察する機会を得たのでその概要を紹介したい。



汽水域でのエビ漁の様子
(バングラデシュ、スンダルバン地域)



スンダルバン地域の感潮河川は干満差が激しく、また、シルトが大量に堆積する。



ファラッカ堰(上流側を臨む/道路左側は鉄道軌条)



ファラッカ堰(下流側を臨む)

伊藤 丹

北海道開発局石狩川開発建設部
幾春別川ダム建設事業所所長

フアラッカ堰 プロジェクトの概要

インドが建設したフアラッカ堰プロジェクトはガンジス河下流のバングラ国境から18kmインド領内に入った地点に位置し、①カルカタ港と同港に流れ出るバギラティ川、フーグリ川の沈泥防止とこれに伴う航路の確保、並びに②バギラティ川、フーグリ川の洪水防止を目的とするものである。すなわち、水資源の不足する乾季（10月～4月）はフアラッカ堰の水門を大部分閉鎖して、ガンジス河の水をせきあげ、フアラッカ堰直上流の右岸側に建造した横取水堰から延長約40kmの人工運河により所要の流水をカルカタ側へ導水する。

他方、大洪水の襲来時には、全く逆の操作を行って（フアラッカ堰の水門を開け、横取水堰を閉める）、ガンジス河下流方向（バングラ側）へ洪水を吐くことが可能な計画とされている。本プロジェクトは61年に着工、75年に完成したもので、主要構造物である堰の堤長は約2、200m（ガンジス河の川幅に匹敵、ちなみに石狩川の最大堤間間は910m）であり、恐らく世界有数の規模であろうと思われる。

●フアラッカ堰——計画高水流量73、500 m³/s、堰の堤長2、244 m、ゲート109門×幅18 m/門。

●横取水堰「フアラッカ堰直上流右岸側（カルカタ側）に位置し、運河へ導水する。」取水能力1、130 m³/s、ゲート11門×幅12 m/門。

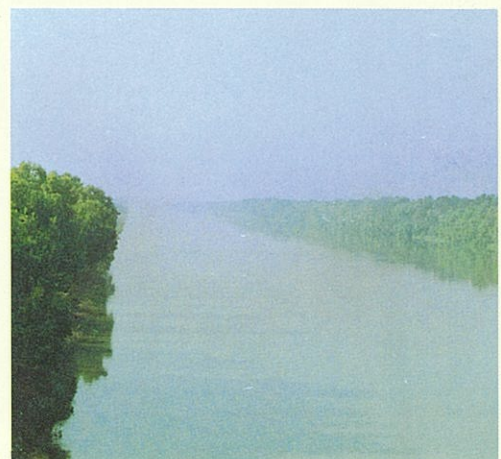
●横取水堰からバギラティ川まで導水する運河（Freeder Canalと呼ばれる）延長38・6 km、水路高6 m、運河の川幅151 m。



伐採したマングローブ系の木材を運搬する舟（バングラデシュ、スンドルバン地域）



フアラッカ堰の上流・右岸側に配置された横越流堰



横越流堰に接続する人工水路

計画導水量1、130 m³/s

ガンジス川配水問題と フアラッカ堰建設の経緯

74年5月のインド・バングラ首脳会談では「ガンジス川の将来的な水資源開発計画」なる全体計画を策定した上で、「フアラッカ堰配水協定」の合意を図り、フアラッカ堰の運用を開始する旨了解された。

しかしながら、75年4月にバングラ政府はインド側から要請された堰本体・運河通水に係る試験実施を一定期間に限り、譲歩したところ、インド側は上記期間を過ぎても運用を停止せず、バングラ政府は76年11月の国連総会でこの問題に関する国連の調停を求め、77年11月に「フアラッカ堰配水協定」が正式調印された。

その後、82年11月の同協定失効、暫定的な

覚え書きの取決めなどの過程を経ることにより、88年まではバングラ側へ一定規模の水量が供給されてきた。しかし、それ以後の交渉は「ガンジス河水資源開発問題」の調整難航がボトルネックとなり配水協定の取決めがなされていない。両国の主張には次のような隔たりがある。

●**バングラ側の案**——ガンジス川上流域（具体的にはネパール）に大規模な多目的ダムを建設し、バングラに対しても流水を補給する。このようなダム建設によりインドに対しても洪水調節、電力供給、水補給が可能となる。

●**インド側の案**——ガンジス川水系の中では比較的流量に余裕のあるブラマプトラ川（チベットの東側の渓谷を流れバングラに入り、バングラを東西に2分する大川）とガンジス川本流のフアラッカ堰上流を連絡する大規模導水路を建設し、フアラッカ堰方面に所要の流水を導く。

今回の視察は乾季の真っ最中である1月に行われたが、フアラッカ堰でせきあげた水が勢い良く横取水堰から運河にかけて流出するのは対照的にフアラッカ堰下流方面（バングラ側）に流れ出る水量はまさに微々たるものという印象であった。

フアラッカ堰は、大都市カルカタと紅茶の一大産地ダージリンを連絡する重要な交通ルートの一部をなしており、鉄道橋・道路橋兼用（堰のピアが鉄道橋と道路橋の橋脚としても兼用されており）の構造物である。このことから単に水の制御のみでなく、ガンジス河を渡河する重要な「Communication Link」としても、大きな存在意義を有している（フアラッカ堰の道路部分の所要には警察官が配置され、厳戒体制が取られており、写真撮影は一切禁止。外交問題の渦中にある重要な施設であることを物語っていた）。この問題を通して、国際河川の水系一貫管理の調整の難しさを改めて思い知らされた。



日本一の「ひまわりの里」

北 竜 町

流域市町村の紹介

**カブよい水を糧に
クリーン農業を展開。**

本町は、7割の山林と川で囲まれております。中でも、暑寒連峰に源流をなす、恵まれた、力のある水の恩恵は、計りしれないものがあります。

近年富に、安全で美味しい農産物を、食べたいと言う、消費者の安全志向を受け、平成2年に一早く「国民の命と健康を守る安全な食糧生産の町」を宣言しました。「環境調和型農業」を推進する、クリーン農業の町です。

また、太陽の花ひまわり日本一の町として、ひまわりのように、明るく健康的な町作りを目指しております。

特にひまわりの里には、毎年20万人を越す観光客で賑わっており、これに意を強くし、サンフラワーパーク事業の展開を計り、滞在型農村観光地として、町のイメージアップ、地域特産品の消流や、雇用の場創出、コミュニティ形成に大きな成果を上げております。過疎地にとって、定住人口は至難でも、交流人口を増やすことによって町の活性化につながります。

今こそ、農村の持つ自然の良さ、豊かな緑、清らかな水、美味しい空気、温かい心、が「都市と農村の共生」につながる絆と思います。

中でも、その核が「水」であり、水を源とする農林業こそ、人と自然を結びつけるものであり、これからも大地を潤し、人の心を潤す、水の偉大さに敬虔し、活力ある町づくりに邁進したいと思えます。



● 恵位別ダム貯水湖 ●

● 三段の滝 ●

● サンフラワーパーク ●

■ 旭川
■ 北竜町
■ 札幌

新十津川町

水と緑の 環境づくり



市街の中心部を流れる徳富川

明治22年8月、奈良県吉野郡十津川村一帯を襲った未曾有の豪雨……。この水禍を契機に新十津川町の歴史が始まりました。

災害で生活の場を失った600戸、2,489人の人々は新天地を求めて移住を決意、大移民団を結成して未開の地であった北海道へと渡ってきたのでした。翌明治23年の春、トック原野に入植した人々は、母村の文化を持ち続けたという強い願望から「新十津川」と名付けこの地に開拓の跡を下ろしました。

以来、農業を主体として順調に発展を遂げ、平成2年には開基百年を迎えました。そして今、本町2世紀のまちづくりに向け「自然と人間が共生、共栄し活力とぬくもり、うるおいのある新たな郷土の創造」をまちづくりの理念として歩みだしたところです。

まちの誕生から水、川と深い結びつきを持つ新十津川町は、まちづくりの基本目標の一つである「水と緑の環境に恵まれたまち」に沿った事業が展開されています。

昭和50年代半ばから整備を始めた「ふるさと公園」は、スポーツ・レクリエーション、教育、文化、保養など様々な目的で幼児から高齢者まで誰もが利用できる施設として年々拡充してきています。自然と調和し、ふれあいが生まれる本町のシンボルゾーンとして、これからも整備を進め、2000年には50haを超える交流の一大拠点が完成する見込となつていきます。

このふるさと公園と中心市街地を結ぶ総富



●ふるさと公園全景●

地川の高水敷を利用して昨年サイクリングロードが出来上がりました。総富地川の清流は本町のシンボルリバーである徳富川に注ぎ、この合流点から石狩川まで約1.5kmの「石狩徳富河川緑地」は、緑あふれる親水空間と文字どおりうるおいとやすらぎの空間となり、両岸に位置する市街地住民に親しまれる整備が進められています。地域住民も「徳富川ラ

●ラブリバー推進協議会
「花いっぱい運動」



●ラブリバー推進協議会
「ピアノコンサート」



ブリバー推進協議会」を組織し、ボランティア活動、地域イベント等川からのまちづくりの一翼を担っています。このように自然と共生する緑地、水辺空間が21世紀の新十津川町の貴重な財産として生まれ、人と人との交流が育まれ、着実に私達の新たな郷土が創造されてまいります。



旭川
■新十津川町
札幌

『川に生きる』

流路延長約268km、
流域市町村48。
大河石狩川の長い長い道程で関わりあう人々。
そういった人々の人生もまた石狩川を物語る。



水位・雨量観測員
森川 茂さん
(樺戸郡浦臼町)

「この仕事は昭和37年からやっています。
(水位観測・昭和37年から、雨量観測・昭和46年から)
前任者から依頼されたのがきっかけでね。水位の観測は朝と夕方の1日2回、雨量が1日1回(自宅に計測器)。観測地点まで1kmぐらいいだから夏はバイク、冬は徒歩でいくよ。辛いのは休みがないこと。体の調子が悪い時は家族と交替してもらおうよ。大雨が降っている時大変だね。指定水位を越えると毎時観測になるからね。もちろん夜も…。家族の協力ががないとできない仕事だよ。」

『観測をはじめて34年。
家族の協力なしではできない』

石狩川のほぼ中央部に位置する浦臼町。農業を中心に発展してきたこの浦臼町と石狩川を隔てて隣り合う奈井江町を結ぶのは奈井江大橋。ここは石狩川の水位・雨量の観測所でもあります。森川さんはこの橋のたもとに計測地点で、毎日の川の状態を正確に記録します。雨の日も風の日も、そして雪の日も…。



稚内

旭川

浦臼町
石狩川
奈井江大橋

札幌

室蘭

『築堤に登ると白い大きな泡を出す水害を思い出す』

「うちは代々農家で、今は息子が継いでいるけど、洪水になると大変な被害でね。生まれてから洪水は4、5回体験してる。観測をしてからの洪水はまず昭和50年のもの。水位が20m15cmになって、家の前のキナウス川の堤防が決壊して…。農家として苦労した年だった。その後昭和56年の水害では水位が20m85cmにもなり奈井江川の堤防が決壊して滝のように流れてね。水位が奈井江大橋すれすれになって交通もストップ。あれは大変な洪水だった。それから15年経過して排水機場もできたけど、天災は忘れた頃にやってくるからね。7月と9月はいつも警戒するよ。ちょっとした雨で水位がすぐに高くなるからね。ド口水や引きの具合でどれぐらいの水害かわかるよ。水がどんどん引くとよくないね。夜13m50cmぐらいあると、朝の水位が20mになることがあるよ」



昭和56年8月の洪水(奈井江大橋上流)

川のすれすれまで降りて数値を計測する



『冬の水の美しさ…。いつまでも清らかな母なる石狩川でいてほしい』

「石狩川は四季を通じてとてもきれいだ。いつまでも母なる石狩川でいてほしいね。わたしが小さい頃はもつと水がきれい、カワガニを釣ったりしたんだよ。とくに冬は静かで、いつ見てもきれいだね」

『観測員の重要性を 実感する時』

「毎年行われる観測会議が楽しみでね。治水に関連する施設をまず見学するんだ。去年は砂川遊水地だったよ。それから北海道開発局石狩川開発建設部の方のお話を聞く。確か世界の川のお話だった。川に携わる仕事をしている人間にとっては興味深い内容でね。同時に観測員の重要性についての話やねぎらいの言葉をかけてもらったりとやってよかったなありとつくづく思うよ。その後は懇親会。温泉に入ったりしながら、たくさん観測員との仕事について語り合うよ。この会議で観測員としての責務を改めて実感するとともに、全道にいるたくさん観測員と情報交換できていることも楽しみの一つだね」



『目標は永続40年。 体の続く限り務めていきたい』

「観測員をしてもう30年以上経ったけど、今の目標は永続40年。80才をすぎてもやるつもりだよ。実際に80才をすぎた観測員もいるからねえ。これからも観測員として、正確な観測を体の続く限り務めていきたい」

奈井江大橋	
計画高水位	20.87m
警戒水位	16.00m
指定水位	14.20m

奈井江大橋はちょうど橋の架け換え工事中。たくさん重機が行き交い、雪の積もった道なき道をかきわけかきわけ歩いていく…。どんなに近代的な施設ができて、こういった地道な積み重ねがあつてこそ、水害のない安全な暮らしが実現する。

「新しい奈井江大橋はピア(橋を支える部分)が少ないから、流れが今よりよくなる」と、工事中の橋を見入る森川さん。すでに、生活の一部となっている毎日の川への道程は、表裏一体の自然と真つ直ぐに向き合ってきた歴史でもある。

川は春の陽気に包まれている。森川さんにとっては穏やかで美しい冬の川ともしばしば別れ、水位の変化に「喜一憂する季節がやって来る。」



川にまつわる思い出を感慨深げに語る森川さん

河川事業の紹介

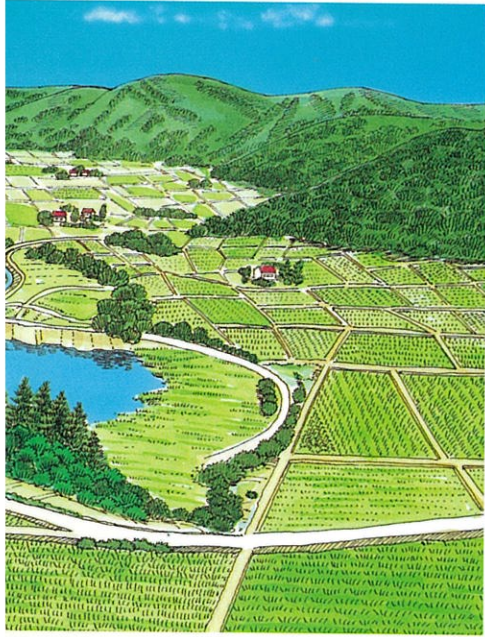
平成8年度重点施策

流域遊水地事業
[新規]

流域の本来有する保水・遊水機能を増進し、自然環境の保全・創造を促進するため、中山間地域等の低未利用地を活用し、洪水時には洪水調節池として機能し、平常時には地下水涵養、水質浄化とともに多様な生態系を育む流域遊水地（ウェットランド）の整備を促進する事業です。

さらに、周辺の水路等とネットワークをつくり、健全な水循環の確保を図ります。

具体的な施工箇所はまだ定まっていますが、旧川跡や低未利用地が比較的多く残されている石狩川にとって、治水安全度の向上・生態環境の創出と同時に、低未利用地地区の地域振興に寄与できるものとして期待されています。



穀倉地帯の安全は治水から
雨竜川捷水路事業

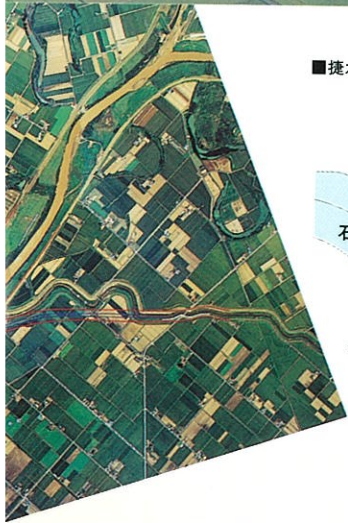
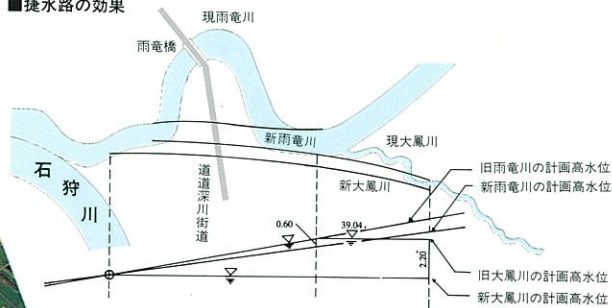
雨竜川・大鳳川流域は床上浸水が多発しています。特に昭和63年8月の災害は大きな被害が発生しました。床上浸水は被災後、通常生活への復旧に多大な労力を要します。とくに高齢者には経済的、身体的に大きな負担となります。

今後の本格的な高齢化社会を迎えるにあたって、人々の生活を守り、誰もが安心して暮らせる生活環境の整備を目的とする「床上浸水対策特別緊急事業」が創設されました。

平成7年度新規に雨竜川捷水路事業が「床上浸水対策特別緊急事業」に採択され、芽生



■捷水路の効果



▲雨竜川捷水路計画略モザイク写真



▲大鳳川洪水

北海道・ゆめプラン 『あなたからの提言』 募集

北海道には、日本の面積の約5分の1を占める美しい大地があります。さまざまな夢を育むおらかな環境があります。21世紀を目前にした今、北海道開発庁では、新しい北海道総合開発計画の策定を進めています。そこで、北海道の表情をもっと豊かにし、可能性をさらに広げるため、全国のみなさんからの提言を広く募集します。あなたが期待する北海道の姿を自由に描いて、お寄せください。

北の大地を元気にする、あなたからの声をお待ちしています。

(応募要項)

■応募方法

「北海道の開発」に関するあなたの考えを800字以上の原稿にまとめ、80字以内の要旨とあなたの氏名、年齢、住所、電話番号、勤務先(学校名)、職業(学年)を必ず明記して、郵便、FAX、インターネット(パソコン通信)のいずれかでお送り下さい。

■応募締切

1996年7月31日(休)〈当日消印有効〉
※応募作品は未発表のものに限ります。※応募作品のすべての権利は北海道・ゆめプラン実行委員会に属します。作品は返却致しませんので、あらかじめご了承下さい。

(選考方法等)

■審査

応募作品の中から厳正な審査のうえ大賞(賞金30万円+北海道往復航空券)ほかを決定し、平成8年11月頃表彰します。

選考委員長：竹内 宏(長銀総合研究所理事長)

選考委員：小林好宏(北海道大学教授)

ピーター・フランク(数学者)

田中義剛(タレント・牧場経営)

中井貴恵(女優・エッセイスト)

北海道・ゆめプラン実行委員会

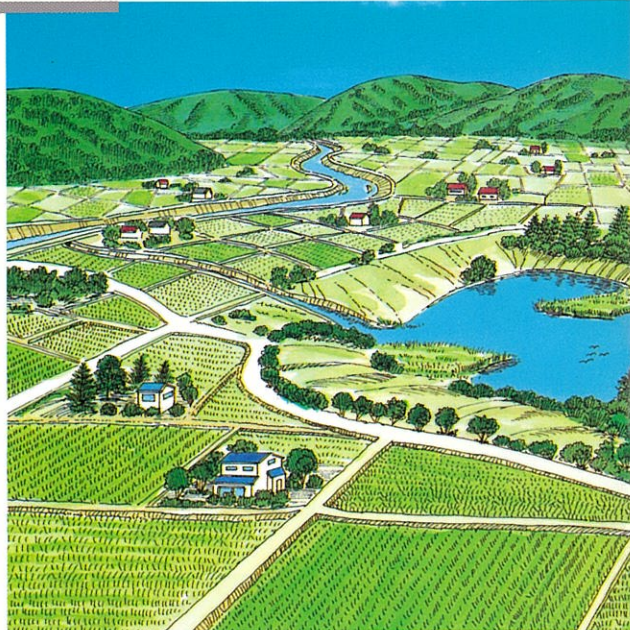
◎(財)北海道地域総合振興機構(はまなす財団)内
〒060 札幌市中央区北5西6札幌センタービル13階TEL(011)205-5011
FAX(011)231-3353

◎(社)北海道倶楽部内
〒100 千代田区永田町2丁目17番17号 TEL(03)3581-4021
FAX(03)3581-4022

—インターネット・パソコン通信(応募要項等もご覧になれます)—

電子メールによる応募の宛先

インターネットアドレス KAIHATSU@pcvan. or. jp

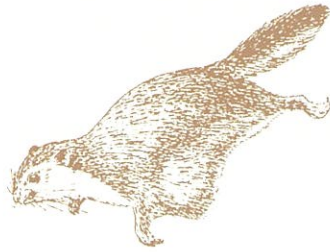


川樋門工事、雨竜川低水路護岸工事に着手しました。
この事業は多発する雨竜川・大鳳川流域の洪水被害軽減のため雨竜川をショートカットし、雨竜川の水位を低下させるとともに、大鳳川の合流点を5km程度下流に移すことにより雨竜川の洪水時の高い水位の影響を少なくし、床上浸水被害の軽減を計ります。



暗闇を飛ぶ エゾモモンガの不思議

たくさんさんの命は森と水の恩恵を受けて生きています。哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類…。動物の種がさまざまにあるように、その生態や習性もさまざまで、とても興味深いものです。



エゾモモンガ◆リス科

リス科の小型哺乳動物。頭胴長15cm内外、尾長11cm内外。背面は一様に淡い銀灰色で、頬から目にかけてほとんど白色。黒色の細い眼輪がある。夜行性で、森林中に生息する。繁殖期は長く、4月から10月にわたる。北海道に分布。



暗闇の中を木から木へ静かに飛行する。白いお化けや火の玉が出たという話、正体はエゾモモンガではないかといわれます。実際のエゾモモンガは頭から尻尾の先まで約25cm程度、全体に銀灰色でなによりもその黒く大きな瞳が印象的な夜行性の小獣です。九州に分布するモモンガはエゾモモンガよりも少し大きく、色も濃い。またよく似た生態のムササ

石狩川の仲間たち。

森が育むたくさんさんの命



ビはモモンガより大きいのでフクロウにも捕食されません。彼らは地上の天敵から身を守るために鳥の古巣などを住家に樹上生活を営みます。起きると巣穴を出、真上の枝にかけのぼり、方向を定めて滑空し、飛行機の尾翼のように尻尾を縦にしたり横にしたりして、方向を変えます。飛びつく木がいつも同じことから、明らかにエゾモモンガは目的点めがけて飛ぶのだと考えられています。トドマツなどの幹に尿や糞の形跡があれば、その木がエゾモモンガのお気に入り、巣が近いことがわかります。

エゾモモンガが飛行を失敗するとフクロウ類、テンやイイズナ、そしてキタキツネたちの狩の標的になります。その犠牲となるのはほとんどが子供です。このように飛行する機能はエゾモモンガにとって大変重要な意味を持ち、前肢と後肢の間にある飛膜はそのために発達しました。エゾモモンガのような草食性哺乳類は天敵から身を守るために、また肉食性哺乳類は獲物を捕獲するために…。自然動物の進化の過程はすべて自然の摂理によって促されてきました。どんなに小さな虫でも同様に…。興味深いのは、リスなどは俊敏な動作で天敵から身を守るのに対して、モモンガやムササビは飛ぶことを選んだ点です。まるで自分たちが鳥と勘違いしているように。

グチュ グチュ グチュ グチュ

エゾモモンガの鳴き声が暗闇の森に響きわたります。神秘的でもあるその声をアイヌの人々はインフケ・カムリ（子守歌の神）と呼んだそうです。哺育期間がかなり長いと考えられるエゾモモンガ親子は離れていても鳴き声でお互いを確認し合っているのでしょう。ヒヨコヒヨコとしたしぐさと黒く大きな瞳の輝きて、見る人たちをたちまち魅了するエゾモモンガの森の暮らしは謎だらけです。

※参考資料「北海道動物記」竹田津実「森の動物の1000不思議」(財)日本林業技術協会編/学生版「日本動物図鑑」

チヨウザメが来遊する石狩川

石狩川に残るチヨウザメ伝説

北海道にチヨウザメが生息していたことが伺える様々な文献やチヨウザメに由来する地名や、民話、言い伝えがアイヌの人々によって残されています。コタン生物記(更科、1976)によれば、チヨウザメはいまでは北海道にも見られなくなりましたが、昔は石狩、十勝、釧路、天塩の河川ばかりではなく、八雲、鶴川でもとれたといわれています。一般にチヨウザメはアイヌ語でYupe (Yube)、ユベとよばれ江別、江部乙、内大部、湧別等はチヨウザメと関係ある地名といわれ、昔、文化神が熊を獲って石狩川を舟で運ぶ途中、神居古潭で舟をひっくり返したので、その肉がチヨウザメになったという伝説があります。また、釧路川筋ではチヨウザメのことをオンネ・チエブ(老大魚、その雄をサラカツチ、雌をヨウマイベとよんでいます。十勝では、カムイ・チエブ(神魚)とかユベ・カムイ・チエブ(チヨウザメの神魚)、ピシ・コル・カムイ・チエブ(鯉をもつ神魚)などといわれています。また、旭川市史(1959)によれば、神居古潭における、「守護神の熊と鮫」、「鬼とさめの格闘」というアイヌ民話も残っています。このようにチヨウザメに関わるアイヌ語の地名は、石狩川流域に多くみられ、



石狩川の自然探求。

川と人、そして動物との関係

その昔、石狩川にはかなりの量のチヨウザメが存在したことが伺えます。また神居古潭より上流ではチヨウザメにまつわる地名が見つからないことから、その昔、石狩川でのチヨウザメの分布は神居古潭よりも下流に限られていたものと推測できます

河川で越冬し、春に産卵するチヨウザメ

それでは石狩川には何という種のチヨウザメ

メが来遊していたのでしょうか。北海道周辺から、ダウリアチヨウザメ、アムールチヨウザメ、チヨウザメの3種類が知られています。アムールチヨウザメは淡水で生活することが多く余り海洋にはでない生活を送ります。一方、ダウリアチヨウザメ、チヨウザメは遡河性の魚。そしてダウリアチヨウザメは春に産卵のために川に来遊し、春から夏にかけて産卵します。チヨウザメは秋に河川に入り、河川で越冬し翌年の春から夏にかけて産卵を行ないます。石狩川では天塩川と同様、春型と秋型のチヨウザメがいたと推定されることから、かつて石狩の前浜や石狩川に多量に来遊したのは、ダウリアチヨウザメとチヨウザメの2種であったと推定されます。また分布範囲や資源量から考えると、チヨウザメの方が多かったと考えられます。

チヨウザメはどこに行ったのか

明治に入り、多くの人々が開拓のため、石狩川を通じ内陸に入り込んでいきました。石狩川河口と石狩川の上流を結ぶ海運も盛んになりました。明治に入ってから石狩川でのチヨウザメの記録はほとんどみられないことから、明治時代にはすでに石狩川の河川内でのチヨウザメの出現はさほど多くなかったものと推定できます。様々な話を総合すると、大正末期から昭和初期には石狩川でのチヨウザメは絶滅に近い状況であったと思われます。またチヨウザメ類の減少は、世界中で最も漁獲の多い、旧ソ連邦においても同様です。その理由として、海域での乱獲、河川での未成魚の獲りすぎ、河川域での工場等による水質汚濁、ダム工事による水量の減少、河川工事等による産卵場の減少などが推測され、世界的に見ても1900年ころを境にチヨウザメの資源量は激減しました。このような世界的なチヨウザメ資源の減少は、石狩におけるチヨウザメ資源にも影響を及ぼし、来遊量が激減したと考えられます。加えて石狩川流域に多くの住民が入り込み開発が進むにつれて、河川の水質、水深、川床の変化、河畔林の伐採等により産卵環境の悪化、越冬場の消失などが生じ絶滅に至ったものと推測されます。

石狩川にチヨウザメを呼び戻すために

豊平川のカムバックサーモンのように、石狩川で消滅した種の回復と多様な自然の復元を目指すことが、これからの川と人間の関係を考える上で重要な課題です。石狩川にチヨウザメを生息させることは、大きなロマンであります。そのためにはどのような方法があるのでしょうか。石狩川にチヨウザメを生息させる場合、そのチヨウザメの利用方法として、イケス、石狩川水系に多く存在している未利用な旧河川の三日月湖等を利用しての食肉、キヤビア生産のための養殖、アメリカカ、ハングリーなどで行なわれているゲームフィッシュとしての利用、親水性を考えて触れて楽しむ情緒教育的な利用などが考えられます。現時点では、北海道でも技術的に生産が可能になった※ベステルが有望です。また、かつて石狩川に遡上していたチヨウザメ、ダウリアチヨウザメについては、親魚を捕獲し、人工催熟による人工受精で稚魚を生産し河川に放流し、回帰を待つ。しかし、これらの種やベステルの天然水域での放流については生態系への影響など様々な課題が多く、慎重に検討していく必要があります。かつてのようにチヨウザメが悠々と泳ぐ石狩川に…。実現に向けて少しずつ進んでいます。

※ベステル/ロシアで作られた雑種のひとつ。オオチヨウザメの雌とコチヨウザメの雄の雑種で、成長が早く卵が多く、飼育しやすく養殖の対象種として最も有望。

冬の風物詩、 ワカサギ釣り



この冬は記録的な大雪に見舞われましたが、河川は冬もレジャーの場として人々に親しまれています。その一つがワカサギ釣り。

ワカサギ釣りは、氷の張った川や湖面に開けた直径15cmほどの穴に短い竿をたらし、釣り上げるもの。適水温の範囲が0℃から18℃のワカサギは、サケやマスと同じように産卵期になると川をのぼる魚で、鉄分やビタミンEを豊富に含み、1月から2月が旬。その淡泊な味は、てんぷらや揚げ物にすると格別においしい。

石狩川や旧河川の三日月湖などはワカサギ釣りのメッカで、週末にはカラフルなテントを張り、七厘などを持ちこんだ家族連れの姿もたくさん見られます。

銀世界で静かに繰り広げられるワカサギ釣りのかけひき。つかの間の自然を感じるひとときといえるでしょう。

トピックス

マイナスをプラスに変えた、 下水道処理水を再利用した流雪溝・融雪溝―奈井江町

道央空知の中心部、石狩平野のやや北部に位置する奈井江町では、下水道処理水を再利用した、流雪溝・融雪溝が平成8年12月から全道で初めて使用されます。

小さな街から生まれた大きなアイデアは、様々な紆余曲折を経て実現しました。この画期的な施設のことを発案者である北良治・奈井江町長が自ら語ってくださいました。



「町民の立場に立って町づくりを進めたい」と北町長

◎奈井江・流雪溝・融雪溝

『これは国、道、町の事業としてそれぞれ国道12号線、道道江別奈井江線の2ルート4系統が流雪溝、町道2ルート4系統が融雪溝として整備されました。水源は石狩川流域下水道奈井江浄化センターの処理水を送水管・導水管を経て引き込み、使用後は奈井江川・クラマイ川に排水します。』

流雪溝は道路の両側に設けた側溝に水を取り込み、10m位の間隔で設けた投入口から路上の積雪を投げ入れ、水の流れを利用して河川まで雪を運ぶ施設です。

融雪溝は、地下に設けた水槽に路上の積雪を投げ入れ、下水処理水等によって雪を融かしてしまう施設です。』



■投雪直後

※平成6年2月 町道北2丁目
通における融雪実験より

融雪状況

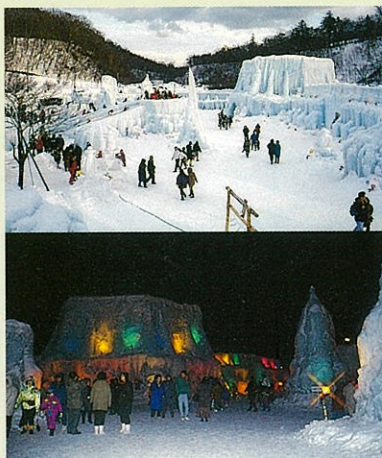


■投雪中(6時間経過)

◎住民の苦言から生まれたアイデア

『石狩川流域下水道奈井江浄化センターは萬敏夫前奈井江町長時に整備され、昭和61年から使用されました。このセンター設立時も町民の理解と協力を得るために大変苦労しました。私が就任した後の昭和63年春に懇談会で地区の人から「近代的な設備だが、風上にいると少し臭う」という苦言を頂戴し、もつと他に活用できないかという話になりました。私も全くその通りだと共感し、色々な方に相談したところ、処理水がともきれいなこと、水温が14、15度になるということがわかりました。これなら冬でも利用できます。そこで処理水で雪を融かす施設を考えついたのです。』

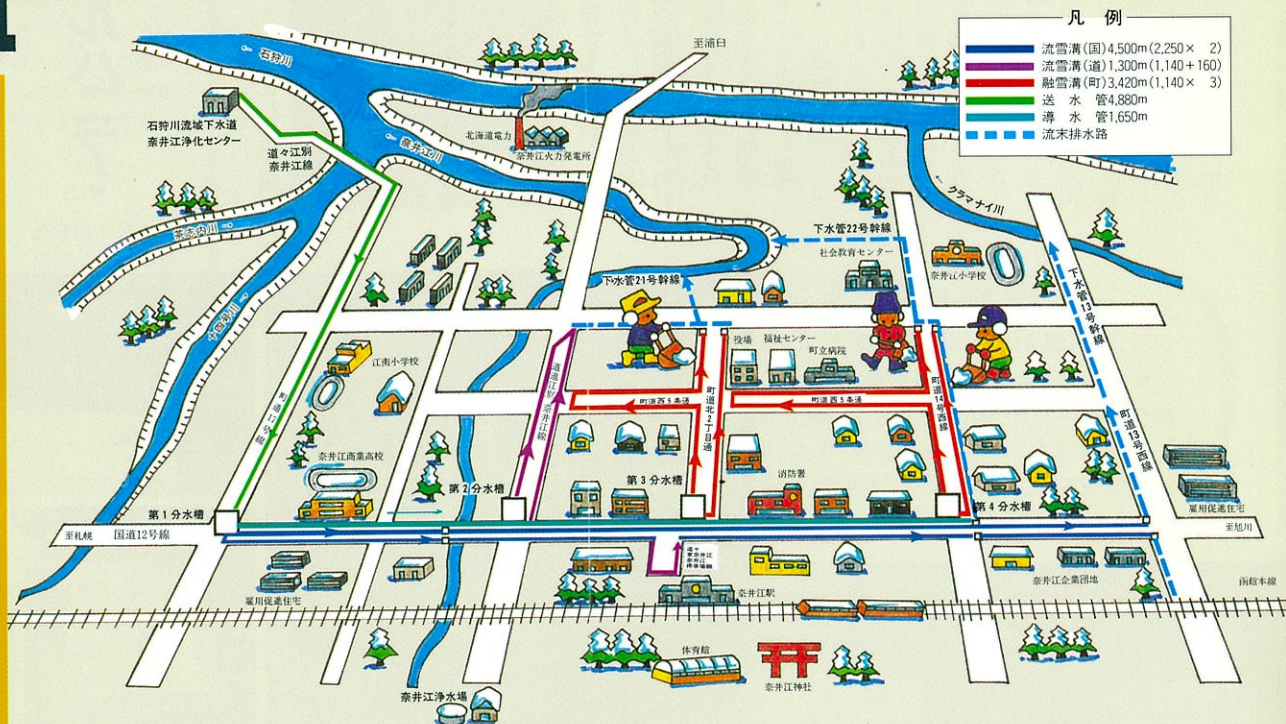
湖畔を彩る氷の芸術、 支笏湖水濤まつり



冬の北海道を代表するイベントのひとつ、支笏湖水濤まつりが1月27日から2月18日まで支笏湖畔(千歳市)を舞台に行われました。ステージで演奏されるサウンドが流れる会場は、道内外の観光客、そしてアジア各国からのツアー客などで大変な賑わい。昨年は阪神・淡路大震災などの影響で来場者数が減ったものの、今年は35万人もの人々が氷の祭典に酔いしれました。

神秘の不凍湖、支笏湖を彩る水像は、昼は青く澄み、夜は様々な色にライトアップされる人々の目を楽しませます。その中でも千歳市の名所でもある「苔の洞門」を氷で再現した造型は、その幻想的なイメージが訪れる人々を魅了していました。夜、湖上での花火で会場の熱気は最高潮に達しました。

Topics



◎山積みの問題を解決して、スタート

「アイデアは非常に画期的でしたが、財政面の問題がありました。町内でも議論になりました。でも私は毎年の除雪費用などを考えるとそれほど莫大な費用ではないと思います。なにより住民の方々にとってプラスになることが重要ですから。そこで、実際に町民に話してみたところ、もう手を挙げて賛成してくれました。」

しかし、この構想を実現するには様々な問題を解決しなければなりません。そもそも下水道浄化センターは広域事業で、この構想も広域事業でなければ協力が得られなかったのです。そこで私は、吉岡清栄前滝川市長に広域事業としての協力をお願いしたところ、全面的に協力してくださいまして、財政の面でも私と一緒に奔走してくださいました。また、処理水の水量が間に合うかどうかという技術面もクリアし、平成4年、歴史的かつ画期的な事業がスタートしました。これも町民の理解と協力、そして前滝川市長をはじめとするたくさんの方々からの協力の賜物だと思っています。奈井江町では融雪溝の整備と連動して駅前開発も行なっています。」

町民のたった一言が新しいまちづくりに発展しました。今年12月、奈井江町は新しい冬を向えます。次は「処理水の夏の活用法を思考中」という、前向きな姿勢がグッドアイデアを生むでしょう。

地球から人類へのメッセンジャー、
「森と湿原」―21世紀の北海道をつくる知恵を学ぶ



THE SECOND SYLVANIA
PROGRAM

第2回 ザ・セカンド・シルバニア プログラム

平成7年12月21日、第2回「ザ・セカンド・シルバニア・プログラム」講演会が開かれた。このプログラムは森を中心に、水面と文化にあふれたまちづくりを進めること、新しいライフスタイルを選択し、実現しようという試みです。森や湿原の保全や魚の養殖に取り組み4人の講演が行われました。

「ザ・セカンド・シルバニア・プログラム」を提唱する橋本識秀さん（北海道開発局開発土木研究所長）が、「文化のある第一の森づくりを私たちの世代から始めよう。それは人類のふるさとづくりであり、地球村づくりである」とこのプログラムの必要性を訴えました。次いで、北方湿原植物園の実現を目指し「種

の保護への不変の環境を」と訴えた辻井達一さん（北星学園大教授）。また「自然を再生するには体験で得る『技』と愛情を持った『心』が必要」と森づくりの夢を実践する東三郎（北海道大学名誉教授）さん。そしてチヨウザメの養殖に取り組み前林衛さん（北海道電力総合研究所主幹）は「チヨウザメが産卵のために戻ってきた時に優しく迎える河川であってほしい」との願いを語りました。それぞれの講演に約700人の聴衆も自然から学ぶ真の豊さについて真剣に考え、最後の意見交換では講演者4人と活発な質疑応答が行われました。



第3回 石狩川サミット開催

自然と人間との共生―川からのまちづくり
未来を託すひとづくり



石狩川振興財団の
活・動・報・告



自然と人間の共生―川からのまちづくりを基本理念とした石狩川サミット。石狩川流域48市町村が参加するという類をみない規模のサミットは、平成3年11月第1回、平成5年11月に第2回、そして平成8年2月9日、江別市において第3回目を開催するに至りました。これまでのサミットの内容は、地球規模で叫ばれている環境問題に呼応したものや、流域圏構想の実現を目指すものなど時代を見越したものなどで、実際に第2回のサミット宣言の中で8月7日『石狩川の日』を制定、平成6年度から流域のクリーンアップ作戦活動を実施するなど、成果も表れてきています。

第3回石狩川サミット開催主旨

―一部抜粋―

北海道の大河・石狩川の流域に子々孫々にいたるまで定住しようとして決意した私たちが自然の川をどうみるか、自然の存在である川から何を学ぶか、そして川からのまちづくりのためにどのように連帯し行動するか、このことをハード面の整備をすすめるときにも忘れてはならないことがはつきりしてきました。パラダイムの転換が起っています。

戦後50年という節目を経た今日、人々の関心は、全国一律の機能一辺倒ともいえる産業基盤整備から、地域それぞれの特性を生かし住民にゆとりや潤いを感じさせる生活関連施設等の整備へ関心が移ってきています。地域住民の自然そのものや自然との共生への関心と熱意は高まりつつあります。身近な自然を思うところを回復し、こころを育てる行動の啓発が求められています。その意味で、「まちづくり」は「びとづくり」でもあり、石狩川サミットが第3回目を迎えるにあたり、とくに「未来を託すひとづくり」をテーマに掲げたゆえんであります。

平成8年2月9日、江別市コミュニティセンターにて、第3回石狩川サミットが開催されました。サミット実行委員会副委員長の小川公人江別市長の開会の挨拶に始まり、主催者を代表して実行委員会委員長の三木毅旭川大学学長から会議の課題と期待が語られました。本番の会議は前半に29市町村長の報告と提言、休憩をはさんで後半は19市町村長の報告と提言が行われ、全体質疑と討議では活発な意見も交わされ、石狩川の清く豊かな流れを保ち、まちの文化を造り出して子々孫々に伝えるために考え行動する『石狩川サミット綱領』の策定に取り組むことを決意した第3回『石狩川サミット』宣言をまとめて閉会しました。会議後の交流懇談会でもそれぞれの石狩川への思いなどを語り合うなど、流域の連帯感を一層深めたものとなりました。



第3回「石狩川サミット」宣言

石狩川流域48市町村長は、住民の付託に応え、不断に創造的活動を継続して常に成長する生命を育む母なる川、石狩川の清く豊かな流れを保ち、わがまちの健やかで高さ文化を造り出し、子々孫々に伝えるために、考え、行動する「石狩川サミット綱領(アジエンダまたはアクションプログラム)」の策定に取り組むことを決意し、それが人類の生存と地球の防衛に貢献するものであることを改めてここに宣言する。



編集後記

- 雪融けの季節、今年の降雪量は観測史上最高記録(札幌)。捨て場に窮して近くの川に捨てる。川は一杯で融雪時に危険だ。「川に捨てないで」の呼び掛けも、歩道の除雪さえまなならぬ中、市民には聞こえない。克雪・利雪の取組みと宿命諦観が微妙にゆれる。流・融雪溝のアイデアと実行は克雪ノ
- 今期首都圏・近畿圏では渇水対策が深刻な問題。びわ湖稚アユの激減も伝えられ、道内数河川でも放流に影響が出ないか心配。雪水の豊かな地域へ人間の移動も昔からの至論。
- 動物の移動もシーズン。シベリヤへ帰るオオハクチョウ、コハクチョウも旧川で羽根を休める。太平洋へ旅立つサケの稚魚の壮行会も盛んに行われる。四年後の水質が少しでも良くなることを願う。
- 「未来を託すひとづくり」には、現実論として高齢社会の生活を想起せずにはいられない。川のほとりでせせらぎを聞きながらの暮し。多様な河川と豊かな河畔(林)で天恵物の採取など高齢者に適した環境づくり。(サミットでの発言より)



ハヤブサ

ハヤブサ科

留鳥。海岸の断崖で繁殖し、海鳥類を餌にしているが、秋や冬には平地にも姿を見せ、湖沼や川に現れることもある。

翼32 cm、嘴2・7 cm、尾14・5 cm内外。頭上、後頭、圍眼部にかけて黒色。背面は灰色。腰と上尾筒には暗色の横斑、尾には数本の黒色横帯がある。尾の先は白い。ほとんど全世界に分布する。空中を旋回し獲物の鳥を見つけると急降下して蹴落とし、足で捕まえる。ケークケークという声を出す。